

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	言語コミュニケーション文化研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ (学部) - コースワークとリサーチワークのバランス (院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供 (学部) - 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容 (学部) - 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供 (院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供 (専院)

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。

A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 2013年度を目標に言語文化学(東アジア)プログラムを開設する。	→東アジアプログラムの開設、履修者数。	A	A	A		
2. 2008年度に新設した日本語教育プログラムを充実させる。	→日本語教育プログラムの改訂、履修者数。	A	A	A		
3. 2013年度を目標に、外国人留学生を対象にした英語のみで修了できるコースを設置する。	→英語のみで受講できる学習支援方法の開発。	A	B	C		
4. 社会人学生に対する学習支援方法を開発、適用する。	→指導体制の充実化、社会人対象のプログラムの実施。	B	A	A		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	予定を前倒しし、2011年度より言語文化学（東アジア）プログラムを開設し、計5科目を新設した。専任教員3名を配して中国文化に焦点を当てた教育・研究を行っている。
目標2	日本語教育学プログラムはプロフェッショナルとアカデミックの2コースを有し、前者は日本語教員養成を主眼とした実践的側面を重視し、後者は教育理論の修得を中心とした高度専門家の養成を目指している。2011年度に本領域に4科目を増設した。履修者は安定的に確保出来ている。
☆ 目標3	2009年度に上記の目標を設定したが、本コースに対する外国人留学生のニーズが必ずしも高くないと考えられることや、本研究科における負担が大きいことから、本目標については本年度をもって取り下げる。
目標4	社会人学生を主な対象とした課題研究コースを設置し、夜間の授業を開講している。また、課題研究コース学生を対象とした集団指導であるアドバイザーコミッティを行っている。また、社会人学生の参加を容易にするため、言語コミュニケーション文化学会の諸行事を土曜日の午後に設置している。
備考	